



第10回食育活動表彰
消費・安全局長賞

めぐみの農業協同組合 春里支店

【岐阜県】 活動期間：6年

「春里架け橋プロジェクト」、大人も子どもも地域みんなで食農活動

食と農を軸とした新しい組織、 コミュニティ活動を展開

地域の食育をすすめるにあたり、2019年に新たに導入する農産物を「枝豆」と決め、「安心、安全でおいしい枝豆を自ら育て食べる」をコンセプトに栽培者を募集し、「春里枝豆を育てる会」を組織しました。小学生と保護者に対する「農業体験企画」は、同年から始めた企画で、春里小学校に募集と取りまとめを依頼し、毎回、定員を大幅に超える申込みがある人気企画です。



「春里枝豆を育てる会」の皆さん



栽培実験畑での枝豆の収穫の様子



体験内容は収穫から、種まき、苗植え、座学まで多彩

学校における枝豆授業や探究活動に対する支援、 教師に対する食農体験の取組

2020年から始めた、春里小学校3年生の「枝豆授業」は、枝豆の種まきから植付、収穫、出荷段取り、大豆のさや取り、きなこ作り、豆腐作りなどを1年かけて学びます。同校教師に対する食農体験も、年3回ほど行っています。可児高校（普通科高校）では、食農体験を一步進めて、生徒による探究活動を支援しており、2025年には家庭から出る生ごみを堆肥化し、小松菜を栽培する取組も行っています。



3年生が、枝豆と大豆について1年かけて学びます



可児高校の生徒の探究活動を支援



教師も年数回、収穫等を体験

地域住民に向けた、野菜苗の無料配付や 栽培講習会、加工教室などを開催

「自ら育て、自ら調理し、自ら食べる」ことが、一番の食育との考えのもと、プロジェクト開始当初より隔月で、来店者へ野菜苗の無料配付を行ってきました。現在では定着し、毎回70～100人ほどが訪れています。地域住民から、野菜の基本的な栽培方法や、保存を含めた加工品の作り方を教えて欲しいという要望が寄せられるようになり、食文化継承の意味合いも兼ねて、農産物に関する講習会を増やし、職員が講師となって定期的に実施しています。



春と秋の年2回開く野菜講習会



本格的な干し柿作りを学ぶ講習会



教室で干し芋を作り、各家庭で乾燥させます



「春里架け橋プロジェクト」は2019年に、地域で協同活動をすすめる農業協同組合の支店として、地域にどんな貢献ができるかを考えた結果、一つの答えとして「食農、食育」を進めるに至りました。当初は体制を含めて、基盤となるものが無く、中心となる農作物選定や組織づくり、学校や地域の農業グループの連携強化、対象を明確にした食育企画の実現など、地域の皆さんや学校関係の皆さんの多大なご協力のもと、すべて新しく創り上げてきました。この6年間で、当初描いた姿に近づいたと感じています。

そんな折に、こうした大きな賞を受賞できましたことは、非常に光栄なことで、関係者一同感激に浸っております。本当にありがとうございました。

春里架け橋プロジェクトに関わった皆さん
（左から支店長、高原校長、野村さん、若尾さん、船木さん、勝野主任）